

神奈川私学保連

NEWS



神奈川私学保護者会連合会 会長 鴨下 博厚

(洗足学園中学高等学校 洗足会顧問、日本私学保護者会連合会 副会長)

2024年度の活動について

5月23日(木)の14時から、神奈川県私学会館4階講堂におきまして、2024年度の定時総会を開催いたしました。今年も各学校から多くの方々にご出席をいただき、誠にありがとうございました。総会は無事に成立し、また各議案も原案通り可決され、本会の2024年度の活動が始まりました。

総会では、本連合会の規約の一部改正案を上程し、承認されました。規約の「第七章 役員任期」の第9条に、「役員任期は原則として最長10年とする」という文言を付け加え、役員任期に期限を設けました。役員を長期間お務めくださることは、豊富な知識や経験を役立てていただけるため、会の運営にとっては非常にありがたいことです。一方、お子様が卒業してからの時間が経過すると、出身校の保護者会との関係が希薄になる傾向もあります。この会の活動目的は、神奈川県全ての私立学校と、そこに通う生徒たちの教育環境を少しでも良くしていくことであり、こういった活動は本来、お子様が現役または卒業して間もない保護者の方が担うべきと考えて、規約を改正することにいたしました。

これにより、本会で約10年もの間活動してくださった4名の方々も退任され、新たに現役に近い4名の役員をお迎えすることになりました。会務を良くご存じの方々が一斉に退任されて、非常に心細い気もしておりますが、新たな体制で会務を上手く分担しながら、本年度の活動を進めてまいります。

さて、本年4月には神奈川県私立中学相談会が、7月には神奈川県私学(高校)展が、パシフィコ横浜で開催されました。両展示会ともに多数の私学への進学希望者が来場し、また各学校のブースでは、来場した生徒やご家族が真剣に相談する姿が見え、神奈川県私学への進学希望・期待の高まりを実感いたしました。

私立学校は、それぞれが独自の建学の精神を持ち、それに基づいた教育方針を掲げ、特色ある教育を行っています。特にコロナ禍の3年間では、各学校はその自立性・独自性を遺憾なく発揮し、授業や学校行事の実施などに、俊敏かつ適切な対応を取られました。この事実・実績こそが、現在の神奈川県私学への進学希望や期待につながっているのではありません。

一方、各学校が単独ではなく、神奈川県私学としてまとまり、一致団結して進めていかなければならないことがあります。それは私学助成金の一層の充実・拡充です。

特に神奈川県は、学校への助成金である経常費助成費等補助金が、高校については国の財政措置額にあとわずかに迫りました。が、中学は非常に低いレベルに留まっています(令和6年度確定額)。このお金は、各学校の安定的な経営・運営に必要であるだけでなく、生徒たちのよりよい教育環境の整備に必要なものであり、私学人気が高まりを見せている今だからこそ、学校と保護者会の団体が一緒になって行政に要望し、少しでも前に進めていかなければなら

ないものです。

9月9日には、県私立中高協会の役員の方と先生方と一緒に県庁を訪問して、県議会議長に対し、私学助成の一層の充実・拡充を請願してまいりました。また、11月6日には私学振興全国大会を文京シビックセンターで、11月20日には神奈川県私学振興大会をパシフィコ横浜で開催する予定です。いずれも国や県に対し、私学助成の一層の充実を直接訴えかける貴重な機会です。各私学保護者会に開催を案内しました際は、積極的なご参加をお願いいたします。

また、保護者会連合会の研修事業としては、2月に私学会館講堂で「お片づけ」をテーマとした講演会を開催する予定です。皆様にご案内いたしました際には、積極的なご参加をお願いいたします。

この会の活動は他にも、主に県などが主催する会議・団体への役員派遣、日本私学保護者会連合会・関東地区私学保護者会連合会との連携・協力など、求められる役割は広範に及んでいます。今年度も役員の皆様と力を合わせて、充実した活動を続けてまいりますので、加盟校の皆様方には引き続き、本会へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆

今年の7月には、日私学保連の総会・研修会が静岡県静岡市で開催されました。11月には日私学保連の青少年育成研修会が東京都千代田区で開催されます。上記団体との連携などを含め、本会の様々な活動についてはこの「私学保連News」紙上で報告してまいりますので、ご一読くださいますようお願いいたします。

2024年

定時総会の開催

神奈川私学の発展のために

5月23日（木）に私学会館にて開催した定時総会。神奈川私学（小・中・高）の保護者会加盟校86校中、出席校25校、委任状提出校55校で総会は成り立ちました。

鴨下博厚会長の挨拶に続き、来賓として私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長（聖光学院中学校高等学校理事長・校長）からご挨拶をいただきました。議長には加賀美博之副会長が選出され、2023年度事業・決算報告と2024年度事業計画と予算が提案され、原案通り承認されました。役員再選の任期について原則最長十年とするという規約の改正が承認され、今年度の改選について、役員推薦委員会の深谷祥子委員長より提案があり、13名の役員が承認されました。また、長らく役員を務められ今回退任される4名の役員の方々に感謝状が贈られました。加盟校、会員の皆様方には、引き続き本連合会へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



ご挨拶（総会より）

一般財団法人 神奈川県私立中学高等学校協会

理事長 工藤 誠一

（聖光学院中学校高等学校 理事長・校長）



中高協会理事長の工藤です。最近、公立では保護者会は必要ないという話がありますが、私学の各学校の保護者会が連合していることの意味は、まさに各学校の「自治独立」建

学の精神」を守るためです。各学校は、それぞれの学校の特色あるカリキュラムを守らなければいけない。そのためには県の私学全体がまとまっていくことが大切ということで、私自身、協会の役員になることを自分で決意しました。私は私立中高協会という神奈川82校の学校でつくる協会の理事長であります。当然のことながら、県の公立学校の代表の責任者は知事である黒岩知事、そして私は知事と同じ立場で私学の代表として、年に2回話し合つことができます。神奈川の子どもの未来のために教育を語ることができるとはやはり非常に大きいことなのです。

今、心配している点を三つほどお話します。一つ目は、先ほど鴨下会長もおっしゃっていましたが、神奈川県私学保護者会連合会として目指す最も大事なことは県の経常費補助金を増やすことだと私も申し上げております。私学に関しましては経常費補助という形で補助金があります。今、高校生ですと生徒一人当たり30数万円、中学生ですと20数万円、神奈川県でも補助金が出ます。でも、その金額は実は全国最下位なのです。それに引き換え、東京は財源が豊かでありますので、生徒一人当たり直しますと。全国で2番、3番、とい

う金額です。多摩川を挟んで北になるか南になるかで大きく変わってしまうという現実があります。やはり本当にそれでいいのかと、私共は県に対して訴えています。

一つ目は、東京の場合ですが、この4月から高校生で私学に通わせている場合に年間47万5千円の学費支援が、保護者の年収が2千万でも3千万でも出ます。県内の私学の中には3分の1の生徒が東京から通っている私学がある。同じ学校に通う中で47万5千円出る生徒とそうでない生徒がいるのです。これ为本当にいいのでしょうか。

そして三つ目です。何十年ぶりに教職調整額が変わりますね。今、4%というのが、数十年ぶりに10%に。それも10%以上となっている。東京は10%じゃなくて、12%いや、15%にするかもしれない。そうすると東京には先生が集まるけれども、10%のところには集まりづらくなる。こういう問題も多くはらんでいるわけです。

お金に纏わる今心配な三つをお話しました。このような形で私たちが連合会を作ってまとまることによって、県当局、あるいは県会議員たちも私たちの話に耳を傾けようとするのです。これは一つの学校だけではできません。やはり、これからの時代というのは、ネットワークを構築して突き進んでいかないと、クリエイティブなものではないと考えています。

このような環境の中で、補助金等は全国最下位のレベルにありますけれども、神奈川私学は神奈川私学しかできないことをたくさんやっています。ここからは、いくつかその紹介をします。

ご記憶の中にあるかもしれませんが、コロナの時に県内で四つ拠点をつくって私学の先生たちや希望の生徒にワクチン接種を行いました。中学入試に関しましては、試験の当日に体調不良

で受験ができなかった子たちのために共通追試を行っている。中学入試の共通追試を実施している県は全国の中で神奈川しかありません。

また、神奈川私学に通っている場合、お子さんが不登校になった場合に通える修学支援センターという場所がこの会館の3階にあります。子どもたちが通ってきて、ここでの出席日数を単位と認定してもらって学校へ戻って卒業していく子もいますし、大学に入学した子も出ています。

さらには、昨年度から新しい事業といたしまして、学校の先生たちの募集をしています。以前から大学4年生の教員志望者に対しての登録をしておりますが、現在は3年生からの登録もしています。大学3年生で将来教員免許を持って教員になりたいといった場合に、3年生のときに登録してもらって採用したい学校が面接をして内定を出します。

教員の募集でもう一つ、特別教員免許状というものがあります。今まで教員免許状を持っていなかった人が免許状を得て教壇に立てるようにする県の制度を協会として後押しする取組をしています。教職課程を取れなかった大学院生や長く一般で研究職を務められた方々などに登録をしてもらい、まず面接をさせていただいて、この方は教員ができるかと認められた人たちに、学校での特別非常勤講師や協会の修学支援センターでの経験など様々な形で練習を進めてもらう。その結果、推薦状を得て、県の審議会で承認され特別免許状を取得することになります。

このように今82校で組織している神奈川私学は、私学全体の発展のために様々なことに取り組んでいます。それぞれの私学がまとまり、私ども教育現場に立つ者、そしてお子様を通わせる保護者の方々が手をとるにも取り合いながら前に進んでい

くことは、この神奈川の地で必ず新たな形での教育への道筋をつくることのできるのではないかと思っております。これからも引き続き、皆さま方のご協力を神奈川私学に対して賜りますようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

メリーランド大学ボルチモア カウンティ校と私立中高協会 との覚書の締結について

アメリカ現地時間2024年8月13日(火)午前10時に、メリーランド大学ボルチモアカウンティ校と神奈川県私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長(聖光学院中学校高等学校 理事長・校長)の間で覚書の調印が行われました。

両者の関係は、神奈川県とメリーランド州の姉妹州を縁に2019年度に始まっており、夏休みの期間に私立学校の中学校3年生から高校3年生の生徒がメリーランド大学ボルチモアカウンティ校で語学研修を行っています。

そしてこの度、さらに両者間での協力体制を強化、推進するために覚書を交わすことになりました。この覚書には、『グローバルアチーブメント奨学金』が含まれていて、同校は資格要件を満たした神奈川県私立中高協会加盟校の生徒に、年間1万5千ドル(4年間で6万ドル)の奨学金を提供することになりました。



●2024年度 神奈川県私学保護者会連合会 役員

役職名	氏名	所属団体名・役職名
会 長	鴨下 博厚	洗足学園中学高等学校 洗足会顧問
	加賀美博之	聖光学院中学校高等学校 後援会副会長
副 会 長	飯塚 昇	横浜女学院中学校 高等学校 PTA 会長
	庄司 由紀	横浜富士見丘学園中学校・高等学校 PTA 副会長
	山田 弥生	サレジオ学院保護者会 顧問
理 事	林山 明美	三浦学苑 後援会副会長
	佐藤富美恵	立花学園高等学校 PTA 参与
	関沢 朱美	横須賀学院 PTA 会長
	米本真貴子	カリタス学園 後援会顧問
会計理事	鶴岡 和雄	横浜清風高等学校 PTA 顧問
	坂本 綾	柏木学園高等学校 後援会特別理事
監 事	青木八重子	横浜学園高等学校 後援会副会長
	阿部 浩	武相中学・高等学校 PTA 相談役顧問



◆特別講演会◆

『古典落語』

金明竹・阿武松

落語家 瀧川 鯉丸 様



今回の特別講演会は大雪で中止になりました2月総会で予定していた「落語公演会」の延期公演として、2月に出演予定でありました落語家の瀧川鯉丸さまに改めて出演をお願いしたところ、ご快諾いただきましてこの日開催の運びとなりました。

瀧川鯉丸さまは幼少から神奈川県横須賀市で過ごされ、神奈川県立神奈川高等学校に進学し、逗子開成高等学校を経て早稲田大学に進学し、大学卒業後に瀧川鯉昇師匠に弟子入りされ、修業の道に入られました。4年間の前座修業の後、2015年4月に二ツ目に昇進され同年6月には横浜にぎわい座にて記念公演を開催。その後、2019年には第11回「前橋若手落語家選手権」で準優勝されました。現在は都内寄席をはじめ全国の落語会やのべ200以上の学校公演に出演されご活躍の鯉丸さんは、「師匠、先輩方が大事にしてきた噺と心意気を、いいカタチで受け継ぎ、毎日どこかで高座に上がっている落語家をめざしています」と語る、大変熱意溢れる期待の落語家さんでいらっしゃいます。

今回の公演では、最近の寄席や落語会での楽し

いエピソードを交えながら、何度もくりかえす上方弁の早口の口上と話のとり違えのおかしさでかせる「金明竹」と第六代横綱・阿武松緑之助（おのまつみどりのすけ）の出世物語である「阿武松」の二本をご披露頂きました。軽妙な語りから始まり、心地よく抑揚の効いた落語の世界へと会場はたちまち鯉丸さんの世界に引き込まれていきました。

会の冒頭では、嬉しいことにこの私学会館での「落語公演会」の二日後、5月21日には来春の真打昇進が決まったことが司会から発表されました。鯉丸さん、本当におめでとございます。そして改めて、この度は保護者会連合会の特別公演会にご出演いただけたことに、重ねて心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

ここで、聴き手となったご参加の皆様からアンケートに寄せられた感想をいくつか紹介します。

- 引き込まれました。
- 日本の伝統文化にふれられて楽しい演目でした。とても楽しみにしていたのでとても良い公演が聞けて本当に良かったです。
- テレビ以外で初めて落語を聞きました。長いセリフはとても迫力があって、笑える所もあって楽しかったです。
- 古典落語を楽しむことが出来ました。ありがとうございました。とても明るく、センスも素晴らしいと感じました。また噺を聞く機会があることを楽しみにしております。ご活躍を楽しみにしております。
- ずっと楽しみにしていて、拝見することができてとても楽しかったです。また、個人的に聞きに行きたいと思いました。
- 生落語は初めてでした。声の調子や通りが

良くて、表情もよく見えて、とても楽しかったです。

○真打に昇進されるだけあって、確かな実力で、時間管理も素晴らしい、また聞きたいです。

○情景が目には浮かぶ様な話術に引き込まれました。

○表情豊かな語り口に惹き込まれました。久しぶりに聴いた落語でしたが、あらためてその楽しさと面白さを実感しました。

○落語は初めてでしたが、面白さがわかりました。

○またこの私学会館で落語が聞きたいと思いました。ありがとうございました。

○前回中止になったので、もう瀧川先生の演目が聞けないとても残念な思いでしたが、今回公演して頂けたなんて光栄です。（運営の役員の）皆様のご配慮に感謝致します。ありがとうございました。



特別講演会 感想

理事 山田 弥生

(サレジオ学院保護者会 顧問)



2月に予定していた公演日は大雪予報のために中止となり、5月の総会の後に延期公演を快くお引き受け頂きました。

神奈川県横須賀市ご出身の落語家瀧川鯉丸さんは、逗子開成中学高等学校、早稲田大学をご卒業され、落語の道へ進まれました。来春には真打昇格が決定しているとお話から和やかに始まりました。常に穏やかな笑顔、歯切れの良い口調で、会場はあつという間に鯉丸さんの世界に包まれていきました。地元で行った公演のお話、先日ご高齢の方のご自宅で寄席をされたひとときなど、地域との交流を笑いを交えながらお話しされました。

ひとつ目の演目は「金明竹」、古典落語のひとつです。何度も繰り返される早口の口上と話の取り違えが楽しいお噺でした。教わった事をそのままやったのでは失敗する事もある、また現代は余裕がなくて失敗は怖くて出来ない時代だけれど、本来人間は失敗しながら覚えていく動物なのであるというお話もされました。また落語の世界に入るには、まず「この人の弟子になりたい!」と思うところに頼みに行き、弟子入りをしたら4年ぐらいは下働きをしながら失敗を繰り返しているいろいろな事を覚えていくなど、ご自身の体験談と共にお話が進みました。私自身子供に何かを頼む時に、「失敗したらその時はその時!」とは思わず、「どう説明すれば失敗しないでやる事ができるか」を考えて、いかに失敗の体験をしないで済むかを考えていたなど、ハッと気付かされました。

ふたつ目の演目は「阿武松(おつのみつ)」、6代目横綱になった阿武松緑之助という出世力士のお噺です。一度は閉ざされた世界に、周りの人の力を借りて横綱に出世するという内容で、登場人

物の気持ちなど、聞きながらいろいろと想像してとても楽しかったです。

最後に鯉丸さんは、「自分は人前は苦手、ましてや人前でなんて話した事ないタイプだったのが、高3で落語を聞き、まさかこの世界に入るなんて想像もしていなかった」そうです。小さなきっかけ一つで自分の未来に新しい光が差し込んでくる事もあるのだなと思いました。それを楽しんで一日一日を過ごす事ができるのなら、これ以上の幸せはありません。「神経質で複雑な時代ですが、落語を聞いて元気になりましたよ!」とおっしゃった鯉丸さんの言葉が、会場の皆様にも響いたことと思います。

新役員紹介

理事 林山 明美

(三浦学苑後援会 副会長)



今年度、ご縁を頂き、新たに神奈川県私学保護者会連合会の理事となりました林山明美と申します。

私には高校3年生になる息子が一人おりまして、三浦学苑で日々たくさんのことを学ばせていただいております。三浦学苑は部活動が盛んな学校です。野球や卓球、陸上、サッカー等のスポーツから、吹奏楽、その他様々な部活動の練習に、生徒たちが日々励んでいる様子を見ることが出来ます。学科コースは普通科から工業技術科まであり、「個性と自主性を持った国際人の育成」という学校教育目標のもと、文武両道、基礎学力の向上、社会で生き抜く人間力の育成に、先生方にはご尽力いただいております。

三浦学苑後援会は、活動を希望する保護者と教職員の方々に構成されており、小学校や中学校のPTA活動と少し違って、各委員会などは無く、学校や生徒たちの様々な活動をサポートし、

応援することを目的としております。10月に行われる「ささりんどう祭」では、教職員の方々と協力し、後援会で代々伝わるカレーを作り販売し、交流を深めています。学校の雰囲気や、生徒たちの成長を間近に見ることが出来ますので、機会がありましたら、皆様方にもぜひご来校いただきたいイベントです。

今まで私学保護者会連合会の私学保護者ZOWSは拝読していましたが、活動につきましましては、遅ればせながら昨年初めて神奈川県私学振興大会に出席させていただきました。参加してみ、生徒たちのよりよい教育活動の整備の必要性を感じました。この度、理事という大役を仰せつかりましたが、皆様方のご指導のもと、先輩方がつないできたものを、私もまた次につなげられるよう、微力ではありますが精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

理事 佐藤 富美恵

(立花学園高等学校 PTA 参事)



コロナ禍の数年间は登校も行事も制限され、子どもたちにとって大変な数年間であったと思います。以前のようにとはいかないものの、徐々に日常に戻り、校舎の彼方此方から子どもたちの声が聞こえるようになりました。漏れ聞こえる音に保護者としても嬉しい気持ちでいっぱい입니다。

神奈川県西部に位置する立花学園は、酒匂川の支流、川音川沿いにあります。天気の良い日には、丹沢や箱根連山の先に富士山までも望むことができます。

四年後創立百年を迎える立花学園は、「誠実・実践・奉仕」の校訓のもと、子どもたちを「伸ばす」ために先生方が尽力していらつしやいます。中学生生活を楽しむ余裕のなかった長男と共に合同相談会の立花学園のブースに伺った際、対応し

てくださった先生が「僕は君と話をしたいのだよ」と話しかけてくださり、対話が始まりました。これから我が子の人生が変わったのではないかと今でも思います。高校では部活動だけでなく、学校行事も積極的に楽しんでいました。本人からは直接聞くこともできませんでしたが、担任の先生だけでなく学年や教科の先生方からも学校での子どもの様子を伺うことができました。私自身は私学に縁がなかったため、私学の先生方はこんなにも丁寧なサポートをしてくださるのだと感動しました。この高校生活を経て、長男は大学生活を謳歌し、現在は社会人として、仕事も趣味も全力で楽しんでいるようです。

この度、理事という重職の末席に身を置くことになりました。微力ではございますが、皆様のご指導の下、私学及び私学保護者会連合会の発展と次代を担う子どもたちのために、精一杯務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

理事 関沢 朱美

(横須賀学院 PTA会長)



横須賀学院は、戦後の混乱の中「教育は希望」と確信のもと、真の平和と民主主義の社会を担う若者を、男女共学による小学校・中学校・高等学校一貫してキリスト教教育を行い育てる、三浦半島唯一のキリスト教学校として、1950年に創立されました。聖書の御言葉より用いられた「敬神・愛人」を建学の精神に、「それゆえ、信仰と希望と愛、この3つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である」から導き出された「誠実・努力・奉仕」を生活目標としています。

海が近く国際色豊かな横須賀の地に、小・中・高全ての校舎が同じ敷地内にあります。子ども達は身近にいる先輩方を見て、少し先の自分に思

いを巡らせながら日々を過ごしています。様々な行事は各学校ありますが、中でも文化祭(楠木祭)は小学校から高校まで、同じ日にちに行われます。子ども達は学校の垣根を越えて遊んだり、卒業した校舎や先生方を懐かしみに帰ったりと思いがにその日を過ごします。このような温かな交流ができますのも、一貫校ならではの思いです。

横須賀学院PTAでは、子ども達の学年は様々であっても、小学校・中学校・高等学校の保護者の皆様・先生方と共に、心ひとつに様々な活動をさせていただいております。更に支援団体であります同窓会・教育賛助会・後援会の皆さまからもお力添えをいただきまして、私たち大人の大きな愛の中で、子ども達が安心して学校生活を送れる一助となるべく、オール横須賀学院で祈り支えております。

この度、前任の方より大変重責のあるバトンを受け継ぐ事となりました。私のような者がそのバトンを受け継いで良いのかと悩みましたが、皆様よりご指導いただきまして、微力ながら尽くさせていただきました。お受けいたしました。このような時代の中、「教育は希望」との思いを改めて強く感じます。これからを担う子ども達が、心豊かに育つよう願ってやみません。これまで子どもがお世話になりましたご恩返しが少ないのできますように、そして私学の更なる発展のためにお手伝いができましたら幸いです。どうぞよろしくお願申し上げます。

理事 米本 真貴子

(カリタス学園後援会 顧問)



このたび理事を仰せつかりました米本と申します。

カリタス学園はカナダのケベック・カリタス修道女会が設立母体であるミッションスクールです。学園名の「カリタ

ス」はその修道女会の名に由来しており、ラテン語で「愛」という意味です。18世紀のカナダで恵まれない人々への奉仕に生涯を尽くした聖マルグリット・デュービルの生き方が学園の教育の土台となりました。

1953年、戦後日本の課題であった教育活動に取り組むために修道女会から3人のシスターが来日し、1960年にカトリック教育の理念に基づき川崎市多摩区中野島に学園を創立しました。現在、幼稚園・小学校・中学高等学校の一貫教育のもとでカリタスファミリーとしての交流と絆が結ばれています。

小学校では低学年から多摩川探検や羊・山羊の世話をするなど自然に触れ合います。また全学年が取り組む総合教育活動は子ども達がテーマを考え主体性を学ぶ授業であり、生きる力の糧につながっています。我が子が高学年の時のクラスでは、2年間かけて羊毛集めから始まるモンゴルのゲル作りに挑戦しました。地道な努力が実を結び、最後は見事に完成したゲルに全員が宿泊しました。このような試みは、子ども達の可能性を引き出してくれる懐の深い私学であるからこそ実現できたと思います。親として今も心に深く残る有難い体験です。

幼小中高を通して英語・フランス語の複言語教育を行い、多角的な視点を養うことを目的としています。また宗教センター「野菊の家」は保護者や子ども達、教職員、卒業生、地域の方々が集う折り対話の場です。他者とのつながりを築き、神の慈しみを感じる時間が流れています。

私学ならではの学びの日々には、子ども達の力を開花させ人格形成を図る理念が息づいています。微力ながら私学の発展のためにお役に立てれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。



『日私学保連総会・ 研修会静岡大会』

7月18日(木)～19日(金)

◆第1日目◆

副会長 **加賀美 博之**

(聖光学院中学校高等学校 後援会副会長)



7月18日、19日に、日本私立
中学校高等学校保護者会連合会
主催の令和6年度総会・研修会
(静岡大会)に、鴨下会長、飯
塚副会長、庄司副会長と共に出席
してまいりました。

初日は総会と講演、懇親会が、二日目は講演と
静岡市内の臨地研修がありました。

初日の総会では、令和5年度事業、決算報告な
らびに令和6年度事業、予算計画などが審議され、
令和6年度の総会決議が採択され閉会となりました。

総会後には、日本私立中学高等学校連合会会長
である吉田晋様から「私立学校を巡る公費負担等
の動向について」の講演がありました。



初日・講演 (吉田 晋様)



挨拶する鴨下会長

講演後には、私立城南静岡高等学校・中学校の
生徒たちから、企業と共同で地元素材を生かし
た食材等をオンラインショッピングで販売する活
動、また、大学と協力してデジタルアートを創作
し校舎にプロジェクションマッピングを投影する
活動などが報告されました。生徒たちの楽しそう
に取り組む様子が印象的でした。

それから、昨年大河ドラマで改めて
フォーカスされた徳川家康の足跡についてお話し
がなされました。幼少期、義元の下、駿府で過ご
した竹千代の時代、人質のごとく言われますが、実
際には人質というイメージとは程遠く、手厚い待
遇であったことなどが、実例を挙げて示されまし
た。

その後、地元静岡選出で衆議院議員の塩谷立様、
比例代表(全国区)選出で参議院議員の有村治子
様などから祝辞をいただき懇親会が始まりまし
た。

そして、静岡とのかかわりという事で、駿府城
での隠居時代まで時がくんだり、大規模な治水事業
など、駿府の発展の礎を築いた功績、また、隠居
の地を駿府に選んだ理由などについてもお話し頂
きました。

◆第2日目◆

副会長 **飯塚 昇**

(横浜女学院中学校高等学校 PTA会長)

2日目の講演、臨地研修を中
心にご報告致します。



講演の内容は開催地、静岡に
ちなみ、「今川・徳川の歴史と
現代の静岡」と題され、静岡大
学名誉教授・文学博士の小和田
哲男先生がお話くださいました。小和田先生は
NHKの大河ドラマなどで歴史考証をされること
もあり、また、テレビの歴史番組などにもよくご
出演されており、お見かけになった方も
多いのではないかと思います。

講演は今川義元の人物像から始まり、世間一般
に持たれるネガティブな印象で語られることが多
い義元の実像は、当時の社会背景の基準に照らす
と必ずしも実情と一致するものではないことが語

られています。また、今般の総
会・研修会開催にあたり、
静岡県私立学校保護者会連合
会の方々をはじめと致し
ます関係各位のご尽力に
深く感謝致します。



2日目・講演 (小和田 哲男様)



久能山東照宮・御社殿



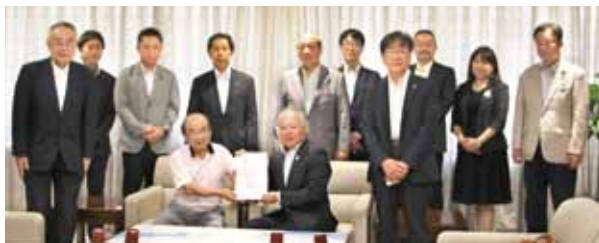
神廟(徳川家康の墓所)

私立学校への「経常費助成補助」の増額を求めて 9月9日 神奈川県庁新庁舎

柳下剛県議会議長へ請願・署名を提出

私立中学高等学校協会役員4名と私学保護者会連合会の役員4名が県庁を訪問し、私立学校の保護者負担の軽減と各校の教育条件の維持向上に向けて、私学への「経常費助成補助」の増額等の要望を県議会議長に提出しました。

6月7日に全加盟校にお願いした「経常費助成補助」に関する署名は、全校の学校・法人・保護者代表から249名が集まり、県新庁舎の議長室において、中高協会の工藤誠一理事長と保護者会連合会の鴨下博厚会長が代表して、柳下剛県議会議長に提出しました。



県議会議長室での請願・署名の提出

請願の理由

神奈川県は近代私学発祥の地であり、県下の私立中学校・中等教育学校・高等学校は、独自の伝統と校風を守り、建学の精神を現代に生かし、有為な人材の育成に努力し、本県教育の充実発展に貢献してまいりました。

幸い、本県においては、私学に対し、知事をはじめとする県当局並びに県議会議員の皆様の深いご理解と

今年も大盛況に終わる!

4月29日(月・祝) 中学相談会
7月15日(月・祝) 私学(高校)展



中学相談会には12,873人、私学(高校)展には36,069人という大変多くの方々にご来場いただきました。大好評でした!

請願の内容

一、令和七年度の経常費補助については、一層の増額をお願いしたい。

ご支援のもとに、私学助成の充実が図られてきました。さて、今日、私学経営はますます厳しい時代に入っております。とりわけ経常費補助金については、全国的に見ると生徒一人当たりの単価は、高等学校(全日制)は国の財政措置額まであとわずかとなりましたが、中学校、中等教育学校はともに国の財政措置額を大幅に割り込み、全都道府県の中で最低の水準にあります。しかしながら、神奈川私学は県下後期中等教育の約三分の一という役割を担っていることから、県下教育を担当している責務の重大さを痛感し、県民に信頼される個性豊かで、特色・魅力ある学校づくりのため、一層努力する所存であります。

つきましては、令和七年度私学助成に関し、左記の点に格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

2024年度主な行事の出席

- ◆ 4月29日(月・祝) 神奈川私立中学相談会 *パシフィコ横浜(鴨下会長・飯塚副会長)
- ◆ 6月28日(金) 関東地区小・中・高等学校保護者会連合会理事会 *ホテルラシーネ新前橋(鴨下会長)
- ◆ 7月13日(土) 全国高等学校総合文化祭 岐阜大会派遣激励会 *西公会堂(加賀美副会長)
- ◆ 7月14日(日) 令和6年度社会環境健全化推進街頭キャンペーン *新横浜駅(山田理事)
- ◆ 7月15日(月・祝) 神奈川私学(高校)展 *パシフィコ横浜(鴨下会長・加賀美副会長・林山理事・関沢理事・鶴岡会計理事)
- ◆ 7月18日(木)・19日(金) 日私学保護者会・研修会 *ホテルアソシア静岡(鴨下会長・加賀美副会長・飯塚副会長・庄司副会長)
- ◆ 7月31日(水) 令和6年度第1回神奈川県いじめ問題対策連絡協議会 *かながわ県民センター(加賀美副会長)
- ◆ 8月20日(火) 理事長・校長研修会 *崎陽軒(鴨下会長・加賀美副会長・飯塚副会長・庄司副会長)
- ◆ 8月23日(金) 事務長会夏季研修会 *ロイヤルホール横浜(鴨下会長・加賀美副会長・飯塚副会長・庄司副会長)
- ◆ 8月27日(火) 保護連研修事業 *防災センター【台風接近中止】
- ◆ 8月30日(金) 関東地区小・中・高等学校保護者会連合会連絡協議会代表者会・研修会 *ホテルラシーネ新前橋【台風接近中止】
- ◆ 9月9日(月) 神奈川県議会議長への請願・署名提出 *神奈川県庁(鴨下会長・加賀美副会長・飯塚副会長・庄司副会長)

これからの行事予定

- ◆ 11月6日(水) 私学振興全国大会 *文京シビックホール
- ◆ 11月15日(金) 青少年育成研修会東京大会 *アルカディア市ヶ谷
- ◆ 11月20日(水) 神奈川県私立中学校・高等学校振興大会 *パシフィコ横浜国際会議センター
- ◆ 1月20日(月) 私学新春のつどい *ローズホテル横浜

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ <https://www.phsk.or.jp> ●内容 学校情報・入試情報・学費補助

■ 発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』 〒221-0833 横浜市神奈川区高島台7番地5 神奈川県私学会館内 ☎045(321)1901
■ 印刷所 『有限会社 イソノ』 〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-4 ☎045(753)2549